



**2020年度  
県立高校入試問題分析  
【栃木県】**

**開 倫 塾 教 務 部**

# ～ はじめに ～

## 2020年度入試の出題傾向・2021年度入試へ向けて

### 1. 2020年度入試の出題傾向

県立高校入試問題は、基本的には中学校の教科書内容から各教科とも各分野からバランス良く出題されています。しかし、出題の傾向が変化することにより解答することが難しくなる場面が出てきます。今回の2020年度入試では、全体的に出題傾向が昨年と比べて大きく変化しました。例えば、群馬県国語の作文、栃木県国語の作文や社会・英作文、茨城県数学などがあります。出題の変化に戸惑う受験生もいたのではないのでしょうか。

近年の入試傾向では、ただ単に基本的な知識を問うのではなく、覚えた知識を活用して問題を解決していく問題が目立つようになりました。問題文を正確に読解したり、資料やグラフ・実験結果などから情報を読み取ったりしながら解答させる問題が増えてきました。また、国語以外の教科においても、登場人物の会話文を読みながら解き進める形式も出題されました。

各教科とも問題数が大幅に増加したわけではありませんが、必要な情報を速くかつ正確に読み取る力（読解力）が重要であることは言うまでもありません。

### 2. 2021年度入試へ向けて

2020年度入試は、各県各教科で出題形式に変化が見られました。おそらく今回の入試である程度の形式変化がありましたので、2021年度入試は今回ほどの大きな変化はないかも知れません。しかし、過去の傾向にこだわり過ぎて対策をしていると更なる変化があったときに戸惑ってしまいます。「絶対にこれは出ない」とか「絶対これが出る」という決めつけは危険です。

まず、教科書の基本的な知識を覚えることや計算問題練習を確実にすることが重要です。分からない語句や英単語は自分で辞書を活用して調べましょう。更に参考書や問題集も使い応用力も養う必要もあります。また、新聞記事などからその記事を書いた記者の主張を読解する練習も、読解力を身につけるためには効果があります。開倫塾模擬テストや塾以外の模擬テストで間違えた問題の解き直しもお勧めします。「分からない問題」を「分かる」に変えてこそ得点が上がります。

そして入試が近づいてきたら、各県の過去数年分の問題を繰り返し練習することが、得点力向上のために非常に重要であり効果が上がる受験勉強です。

教務本部長 岡部正行

# 2020年度 県立高校入試問題分析表

## 【 栃 木 県 】

教 科	国 語	大問数	5 問	試験時間	5 0 分	担当:磯貝直希
-----	-----	-----	-----	------	-------	---------

### 入試問題分析と講評

全体としての大問構成や難度には変化なし。古文の文章量は例年通り。論説文・小説の文章量は昨年と比べ、やや増加。しかし、その内容はさほど難しくはなく、受験生にもわりと読みやすかったであろうと推測される。作文においては形式上の変化がみられ、残り時間が少なかった受験生は戸惑ったものがあったかもしれない。とはいえ、問題中にヒントは多く、落ち着いて読み込めば十分得点できるはずである。

### 大問別分析

①《漢字・語句》 出題形式・問題数・内容とも大きな変化はなし。

1 漢字（読み）× 5 2 漢字（書き）× 5 3 知識問題× 5 難度は、漢字（読み）がやや難化。「映える」「背ける」「赴く」は昨年より少し正解率が下がると思われる。3では、俳句の季節・鑑賞、慣用句、熟語構成、品詞が出題された。H26とH28に季語・季節とセットで出題されていた鑑賞問題が、今年は独立した1問として出題された。8年ぶりに敬語の出題はなし。

②《古文》 出題形式・問題数・内容・難度・文章量とも変化なく例年並み。

1 仮名遣い・2 動作主・3 行動理由・4 行動説明（記述）・5 心情説明

昨年は出題されなかった主語（動作主）に関する問題が復活。また、記述問題の字数は、ここ2年で20字前後→30字・35字と増加傾向がみられる。

③《論説文》 出題形式・問題数・内容・難度とも大きな変化はなし。文章量は昨年大きく（約900字）減少したが、今年は500字程度増加し約1800字（29字×61行）の文章となった。本文は対話とアイデンティティの関わりについて述べたもの。

1 傍線部の説明（選択） 2 傍線部理解・比喩（13字書抜） 3 空所補充・文脈把握（選択）

4 空所補充・接続語（選択） 5 傍線部の説明（40字記述） 6 筆者の主張・要旨（選択）

6問中4問が選択、2問が記述問題。自由記述が1問減り、抜き出しになった。また、頻出の段落関係をとらえる問題が出題されず、要旨にとらえる問題が出題された。

④《小説》 出題形式・問題数・内容・難度とも大きな変化はなし。文章量は昨年やや減少したが、今年は300字程度増加し、リード文を含めると約2000字（リード文 + 30字×67行）となった。本文は、家族との時間をつくるため勤務先を変えること にした父親とその家族の反応が、小4の息子の視点から描かれた場面。主要登場人物となる父と息子の心情把握が中心に出題された。

1 傍線部心情説明（選択） 2 傍線部心情説明（45字記述） 3 空所補充・文脈把握（選択）

4 傍線部理由説明（選択） 5 傍線部心情説明（50字記述） 6 表現の特徴（選択）

3での記述問題が1問だったためか、2と5の記述問題が2問とも字数がやや多めであった。表現の特徴に関する問題は5年連続で出題。

⑤《作文》 字数（240字～300字）に変化なし。一方で、与えられた資料がイラストとなり、条件では段落ごとの分量と内容が指示されるという点で、近年見られない形式であった。過去も演習を積んでいた塾生は面食らったかもしれないが、条件をヒントに、冷静に意見文の書き方の基本を身につけていれば難度は高くない。

### 新傾向や注意すべき問題

⑤の作文はビジュアル的には変化がみられる。新指導要領においても思考・判断・表現力が重視される傾向にあるため、作文を含めた記述の問題には注意を払いたい。また、関連する問題として①や④における鑑賞・表現の特徴に関する問題も合わせて理解を深めたい。

### 2021年度入試への対策

《読解》年により文章量にばらつきがみられる。その内容にもよるが、文章量の多い年にあたっては解答時間を圧迫しないだけのスピードは必要である。特に、後述の記述系の出題が増加・難化した場合、出題傾向が大きく変化した場合、答案作成のための時間を確保する必要がある。

《作文》今後も出題形式として、図表・グラフ、写真やイラスト等の資料が使用される可能性は十分にある。しかし、今年のような細かい条件を示されれば、返ってその指示通りに書けばよいので得点はしやすい。見た目に動揺しないように確実に基礎を堅め、意見文を書く訓練を積むことがまず肝要である。試験開始時に問題全体をさっと確認するなどの工夫があってもよい。

《記述》傾斜配点の高校は言うまでもないが、それ以外の高校においても、今後、記述問題の割合が増えるとなると、それに応じて答案作成の練習が重要度を増す。設問要求を的確にとらえ、対応する内容を本文に求め、問題に合わせて解答をまとめるトレーニングが私立対策以前の時期から意識的にやりたい。

# 2020年度 県立高校入試問題分析表

## 【 栃 木 県 】

教 科	社 会	大問数	7 問	試験時間	4 5 分	担当:小笠原孝
-----	-----	-----	-----	------	-------	---------

### 入試問題分析と講評

大問数は7つと変わらないが栃木県の例年の傾向である1問1答形式の大問1がなくなり各大問における小問数が増えている。また基本的な用語を問う問題も単に知識を答えさせるのではなく時代背景や影響面から考えさせる問題が増え、難易度が上がっている。

### 大問別分析

- 大問1 日本地理の問題。中国・四国地方が出題されている。ただし中国・四国地方の問題のみならず、三角州や太平洋ベルトなど地形や日本の産業全体の問題も含まれている。
- 大問2 世界地理の問題。ここでも一つの地域だけではなく、アジア、ヨーロッパ、アメリカと広範囲にわたっている。難易度は昨年までとあまり変わっていないので、記述問題も過去問や模試などで見かける問題である。
- 大問3 古代から明治時代までの歴史。資料の一部を要約したものを使って解くので資料の内容や時代背景がわかっていないと解答は難しいと思われる。5の問題も鉄砲が城づくりに与えた影響などと絡めている。
- 大問4 年表を用いた明治から昭和の歴史。難易度は例年通りで比較的解きやすい問題が多い。
- 大問5 公民の問題。政治分野・経済分野ともに出題されているが、記述式は出題無し。公民の基本的な知識が問われている。
- 大問6 公民の問題。ここではイノベーションという新しい言葉を答えさせたり、記述では日本の課題である人口減少に関する問題を取り上げている。教科書の知識にとどまらずニュースをチェックし、持続可能な社会を目指すための考えなどが必要になる。
- 大問7 3分野総合だが、ここでも特に4や5番は持続可能な社会を目指すための考え方が必要といえる。

### 新傾向や注意すべき問題

今までは基本的な用語を知っていれば解ける問題が多かったが単に知識だけを問う問題は減り、時代背景や社会への影響から答えを導きだせるような力が必要になっている。

### 2021年度入試への対策

単純に言葉や知識を詰め込むのではなく、なぜそうなるのかを考え、説明できるようにしておく必要がある。また、そのことが今後私たちが生きていくうえでどのように影響するかなども自分の考えを持つことが大切であろう。

# 2020年度 県立高校入試問題分析表

## 【 栃 木 県 】

教 科	数 学	大問数	6 問	試験時間	5 0 分	担当:井腰征夫
-----	-----	-----	-----	------	-------	---------

<b>入試問題分析と講評</b>	昨年度と同様、学習内容や分野に偏りなく出題されていた。問題の難易度も標準的で、特に難問・奇問は見られなかった。一方、昨年度からの「表現力を育てる」という観点から、記述問題が5問出題されているところは特筆すべき点である。中でも、大問3の資料に関する問題では理由を説明させる問題が出題され新傾向の問題といえる。また、大問5の関数では、会話文が提示され、その中から条件を読み取る形式になっていた。関数問題に会話文を取り入れたのは初めての試みである。今後も表現力を試す記述問題や問題文を正確に読み取る読解力を必要とする問題が増えると考えられる。
<b>大問別分析</b>	<p>大問1 「基礎内容の総合問題」例年同様、幅広い分野からバランスよく出題されていた。選択肢形式の問題、標本調査の問題が2年連続で出題されている。</p> <p>大問2 「作図・式の説明・関数の基礎問題」作図は例年通りのレベルであった。式の説明は前年と同様、穴埋め式での出題であった。関数は2次関数と反比例を組み合わせていたが、難易度は例年と変わらなかった。</p> <p>大問3 「方程式の文章問題と資料の問題」方程式は人数の増減に関する問題。資料は基礎知識を問う問題と記述問題が出題されていた。</p> <p>大問4 「証明問題と図形の計量」証明は平行四辺形を利用した三角形の合同の証明。計量は三平方の定理を利用して三角形の面積を求める問題が出題されていた。</p> <p>大問5 「関数の応用問題」トライアスロンを題材にした、文章と会話文を組み合わせた問題。設問は、速さや直線の式、方程式をたてて時間を求める問題など例年と同様の形で出題されていた。</p> <p>大問6 「規則性に関する問題」半径の違う同心円を描き色を塗っていく問題。色の順番の規則性を見つけ出し一般式として表せるかが鍵。さらにそれを利用して方程式をたてる。読解力・思考力が試される。</p>
<b>新傾向や注意すべき問題</b>	ここ2年間は、大問2の(2)に式の説明の穴埋め問題が、大問3に資料の問題が出題されている。また、大問5の関数問題で出題の仕方が変わるなど、ここ2年間で変化がみられる。「表現力を育てる」ための記述問題に対応できること、問題文や表・グラフから正確に情報を読み取る読解力をつけることが必要とされる。
<b>2021年度入試への対策</b>	県立入試では、大問1・2の基礎問題で約40点分を取ることができる。まずは基礎固めが大切である。入試基礎問題を幅広く繰り返し練習すること、苦手分野をつくらないことを心掛ける。大問3以降の応用問題については下野模試の問題や県立入試の過去問で類題を多く解き、出題パターンになれるようにする。

# 2020年度 県立高校入試問題分析表

## 【 栃 木 県 】

教 科	理 科	大問数	9 問	試験時間	4 5 分	担当:野原真人
-----	-----	-----	-----	------	-------	---------

### 入試問題分析と講評

物理・化学・生物・地学の4領域偏りなく、幅広く出題された。基礎的な学力を試す問題は減少し、実験や観察結果に基づき考察する内容、計算を要する問題、グラフ・作図に関する問題が増加した。

問題文・設問・資料を素早く正確に読解し思考する力はもちろん、計算問題の増加にともない、確かな計算力も必要となっている。

### 大問別分析

学年による偏りはあったが、例年通り物理・化学・生物・地学の4領域偏りなく出題されている。小問数は36問でこちらも例年通りである。その主な内訳は、選択問題や語句等を答える基礎的な問題が16問、理由・実験・考察等の記述は4問、グラフや作図の問題は3問と増加し、計算問題は10問と倍増した。

大問ごとの出題内容は、①小問集合、②金星の見え方に関する実験、③電力に関する実験、④植物の観察、⑤マグネシウムを使った化学変化に関する実験、⑥血液循環、⑦密度に関する実験、⑧湿度に関する実験、⑨浮力に関する実験であった。例年通り、実験・観察に関する出題が大半を占めた。主な分析内容は以下のとおりである。

- ① 選択4問、記述4問（うち計算1問）と例年通り。基礎的な知識で解答できる。
- ② 図を正しく読み取ることと、地球と金星の公転周期の違いについての理解が必要。
- ③ 白熱電球とLED電球の電力量（中2内容）の比較については、開倫塾の直前特訓でも扱った問題であった。I<sup>2</sup>Rtの変換効率（中3内容）についての知識も問われた。
- ④ ありふれた問題。会話文から判断した内容を記述する設問が出題された。
- ⑤ 必要な数値を判断して用いる力が必要であった。また、実験値からグラフを描く問題のため、単なる「点と点を直線で結ぶグラフ」ではなかった。
- ⑥ 血液を送り出すのに必要な時間を求める計算問題が出題された。あまり見かけない問題であったため、設問から情報を正確に読み取ることが求められた。
- ⑦ 密度の違いからプラスチックを分類したり、科学的に考察したりする力が問われた。
- ⑧ 問題自体はありふれた問題であったが、設問の1つに、会話文から「露点についてわかることをすべて選ぶ」といった新しい形式のものが出題された。
- ⑨ 様々な資料から必要なデータを読み取り、考察することが求められた。

### 新傾向や注意すべき問題

文字や数字の大きさを区別して化学反応式を記述する問題、正誤を○×で解答する問題、会話文から情報を読み取り判断する問題などが目新しいものであった。また、計算問題が前年比2倍と大幅に増えたほか、読解力や思考・判断・表現力が問われる問題が多くなっている。

### 2021年度入試への対策

単なる知識の暗記ではなく、思考力が問われる問題が多くなっている。そのため、日頃より、マイクリアやフォレスタ、理科のまとめ等を使って基礎基本を定着させるほか、実験結果や観察手順等への対策として、学校で行われる実験・観察に積極的に参加する。また、開倫塾のお盆特訓、正月特訓、土日ゼミといった講座で、思考力が問われる問題への対策を行っていこう。

# 2020年度 県立高校入試問題分析表

## 【 栃 木 県 】

教 科	英 語	大問数	5 問	試験時間	5 0 分	担当:津久井幸
-----	-----	-----	-----	------	-------	---------

### 入試問題分析と講評

今回は大問が1つ減ったが、出題傾向に大きな変化はなかった。しかし、大問3の出題方法が大きく変わり、対話文と英作文が融合する形式となった。全体的に対話文や長文読解の容量が増えていた。教科書の基本文や単語等、しっかりと力を定着させておけばそう難しくない難易度であったと考えられる。

### 大問別分析

【大問1 リスニング】・例年通り絵や表を見て答える問題が出題された。

【大問2 空所補充英作文・並べかえ】

- ・ 1 スピーチの原稿の一部の空所にあてはまる単語を選ぶ問題。  
文脈に沿って適切な英単語（前置詞，tell+人+物，接続詞，疑問詞+to不定詞，名詞，動詞）の選択が出題された。
- ・ 2 現在完了，decide to～，間接疑問文が出題された。

【大問3 対話文】＊出題方法が変わった。

内容：中学生の美樹と留学生エマが清掃週間について新聞を見ながらの対話文。

- ・ 4 対話文の途中に英作文の問題が融合している。3，4単語程度で書ける内容。
- ・ 6 下線部の指す内容を答える問題。自分の言葉で文をまとめる力が必要。
- ・ 7 対話文と新聞の内容を確認しながら5文程度の英文を書く形式。

【大問4 物語文】

内容：主人公がボランティア活動を通してリーダーの在り方を学んだ物語文。

- ・ 3 本文内容に合うよう日本語の文章を穴埋めする問題が2問出題された。それぞれ25字以内、20字以内との字数制限があり。

【大問5 説明文】

内容：シールド工法に関する説明文

- ・ 4 従来通りの『本文内容に一致するもの』の選択から『筆者の最も伝えたかったこと』を選択させる問題となった。

### 新傾向や注意すべき問題

先に述べたように、大問3の対話文が英作文との融合型に変わった。文中に含まれる英作文の難易度は高くはないが、現在進行形や不定詞、feelの用法など、基本的な文法力が試される形式であった。長文読解では、下線部の内容を問う形式の問題が例年通り出題されたが、英文を訳すだけでは足りない。自分の言葉を使って日本語にまとめる力を養う必要がある。

### 2021年度入試への対策

どの年にも言えることだが、出題傾向が高い不定詞や助動詞、そして動詞の用法は重点的に学習する必要がある。また、基本的な英単語や例文は、意味を覚えるだけでなく書けるようにすることで、長文読解及び英作文で力を発揮するだろう。

